

中学生交流は生涯の財産

七尾市訪問団

三浦 光雄 団長

(七尾市教育委員会教育長)

Miura Mitsuo



**交**流事業を振り返り、「積極性の

「違い」を強く感じました。予想以上に金泉の生徒は何事にも積極的で、七尾の生徒は受け身でした。七尾の生徒はひ弱に見え、積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢に欠けていました。そのことは本人たちも気づいていたはずですが、ただ、慣れてくると七尾の生徒も積極的にコミュニケーションできるようになっていったのも事実です。コミュニケーションは、学校の授業で習うのではなく、いろんな体験学習を通して自分の思いを表現するすべを学んでいかなければなりません。韓国では儒教の教えが教育の原点となっています。あいさつや目上の人を敬うなどの礼儀がしっかりしていたという話をよく耳にしました。礼儀正しさが小さい頃から自然と身につく、不自然さを感じさせないと

ころに感心しました。

金泉市との姉妹都市交流をはじめ約36年。子ども同士の交流は約6年ぶりですが、ホームステイを取り入れてお互いが行き来するのは今回が初めてでした。大人の交流ではなく、これからの未来をつないでいく子どもの交流ができたことは大変意義深いことです。韓国での初めての経験の中で、歴史・文化・教育などを目で見、耳で聞き、体で感じたことは、お金では買えない生涯の財産になったことでしょう。

今後国際化はさらに進み、外国の文化や人と交わることで国際的な視野を広げることが不可欠です。子どもでもなく大人でもない、多感で何でも吸収できる中学の時期に経験することは将来必ず役に立ちます。ぜひ今後も交流を継続したいと思えます。

**今**回の交流を通して、姉妹結縁都市として今まで成人を中心として続いてきた交流の幅を学生たち

にまで広げたことに大きな意義があります。三浦教育長をはじめとする職員の方々が生徒たちと親密に意見を交わす様子が良かったし、朝日中学校でさまざまな課外活動をすべての生徒が楽しんでしている姿が記憶に残っています。

今後継続して両都市間の交流を続けていくためには、さまざまな世代と階層における交流が必要だと思われま。今回の経験を一つのパターンにして、両都市の伝統と未来をもに体験できるような多彩なプログラムを開発しなければならぬと考えます。

両都市の子どもたちがともに交わりながら体育競技をし、またボート

に乗り、レクリエーションをする様子を見ながら、やはり子どもたちは純朴で韓国の子どもたちが日本の子どもたちと友達づくりができるのだと実感しました。

青少年は未来の主人公です。これまで日本に対し漠然とした否定的なイメージを持っていた子どもたちに、日本が未来の友達の国として、またいい競争相手としてともに前進していく相手であるという肯定的な見方を与えることができたと考えます。

韓国のことわざに『井戸の中のかわず』という言葉がありますが、両国の子どもたちがより広い世界に出て行くためのチャンスがわれわれが作ってあげることが重要です。今回このような青少年交流の機会を始めたので、青少年の新しい伝統を今後

金泉市訪問団

イム・サンウォン 団長

(金泉教育庁学務課長)

임 상 원



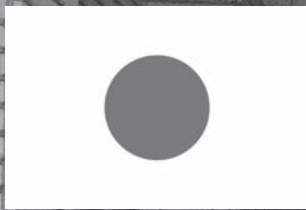
青少年は未来の主人公

国際的な視野を広げ、これからの未来を担う青少年を育成することを目的に今回初めて行われた中学生交流。交流期間は派遣・受け入れを含めて約10日間と短く、交流の成果はただちに現れるものではない。それでも、お互いの未来に向けた青少年交流ができたことは今後につながる大きな一歩といえよう。

視野を広げる必要性は何も中学生だけの問題ではない。ますます国際化が進む中で、『交流体感都市』を掲げる七尾市にとって、国や立場の違いを理解し合い、よりよい交流に向けた取り組みを幅広く進めていかなければならないという点では子どもも大人も変わりはない。生徒たちが異国の地で感じた言葉や文化、生活習慣や自然環境などの違いを今後はどう生かしていくか。また、今を生きる大人が子どもたちをどう支え、どう導いていくのか。今回の中学生交流は、青少年教育という目的ではあったものの、その先にある何かを探るヒントを与えてくれたように感じた。

特集 海を越えた心の絆  
―七尾市金泉市中学生交流―

終わり



七尾市・金泉市中学生交流会 2010

未来に向けて、新たな歴史が  
今はじまった。